

地域と共に生きる

山田 倫

(能代電設工業株式会社 代表取締役)



■日本海次世代エネルギー協議会

このたび、志を同じくする皆さんとともに、日本海次世代エネルギー協議会を立ち上げました。せっかく国が背中を押してくれて地元が洋上風力発電の促進区域になったのですから、この滅多にないチャンスを生かす必要があると思ったからです。これまでの、陸上風力発電の例を見ても、秋田県で発電していながら県外に電気とお金が流れています。これでは、いけません。将来、地元からお金が外に流れていかないような仕組みをつくりたいということで、地元企業8社協同でこの組織を立ち上げました。会員は能代山本の建設関係企業が多くなっていますが、まず能代山本から立ち上げて、いずれは男鹿市や由利本荘市など秋田県全体で取り組むことができ、将来、サプライチェーン的なものを構築できればと考えています。

一昨年、能代市長や商工会議所会頭とともに洋上風力発電の先進地であるドイツとデンマークに視察に行き、大手風力発電機メーカーなどを見て回りました。とりわけ、デンマークのエスピアウは、30年ほど前は小さな漁村だったとのことですが、今や風力発電機メーカーだけでなく、関連する物流施設や研究施設・学校なども擁する一大工業都市になっています。地域の産業が稼いだお金が、その地域で回り発展につながる、能代・秋田もそうなれたらという思いが強くなりました。

協議会は、風力だけでなく、水素なども含めて再生可能エネルギーを学びながら取り組んでいきたいと考えています。これまで、セミナーの開催、再生エネルギー関係の事業者との意見交換などのほか、行政からの情報収集も積極的に行っております。先日、東北電力リニューアブルエナジー・サービス様が、風力発電向け風車のメンテナンス技術を指導する訓練所を秋田火力発電所の構内に設置する、という報道がありましたが、そのような事業者とも協働していければと考えています。

協議会の名称にある「次世代」という言葉は、再生可能というエネルギーそのものの次世代と、次世代を担う若者たち（若手経営者）の両方を掛けています。若者たちの行動力・実行力に、私は大いに期待しています。そして、県外、国外から目を向けてもらえるような組織になれたらと思っています。何しろ国内では初めてのことであり、手探りの部分が大きいでしょうが、うまく回っていったらいいものです。20年後に「やって

きて良かったね」と皆で言えるような仕組みをつくれるよう、皆が知恵を出し、力を合わせていく場として協議会が必要なのです。

■人材の確保・育成・循環

当社の課題として大きなものは、人材の確保と育成そして循環（スムーズな技能継承や世代交代）です。70歳を過ぎても、身体もハートも頭も元気な人には、まだまだ働いてもらいたいと考えています。そうした人たちを含めたベテランと若手の循環が、とても大切です。こうした循環により、人が育ち、会社が育つと思っています。

特に、我われ建設業は国家資格が必要な仕事であり、仕事を受注するためには主任技術者などが必要です。さらに、業務内容によって、それぞれの監理技術者や施工管理技士が必要です。しかし、国家試験は年に1回しかなく、また、地理的に全国どこでも受験できるわけではありませんし、異なる試験が同じ日になることもあります。若い人を育てるためにも、そうした点は改善してもらいたいと思います。

資格の取得にはコストも掛かりますが、社員には資格取得を積極的に奨励しています。取得してしまえば資格は社員個人のスキルであり、会社が万一なくなっても自分のものです。どんどんチャレンジし合格してもらいたいと思っています。

資格試験の勉強は大変ですので、会社の支援策として3年前に講師を仙台から招き、本社2階で講義をしてもらったことがありました（延べ3か月、平日・土曜日）。そのときの合格率は、20数人の受験者全員が学科に合格するなど、非常に高かったと記憶しています。お金もかなり掛かりましたが、助成金があり、助かりました。そうした助成制度を国が積極的に設けてくれれば、助かる企業がたくさんあるのではないのでしょうか。



(本 社)

また、女性には、特に技術者として活躍してもらいたいと考えています。「けんせつ小町」（建設業で働くすべての女性の愛称）の言葉どおり、女性が作業服を着てヘルメットをかぶるのはとても「かっこいい」もので、女性にはどんどん当社に入ってもらいたいと常々思っています。

■これまで取り組んできたこと

当社のイメージアップにも取り組んでいます。10数年前までは、当社のような工事屋にはイメージアップなど必要ないだろうと思っていたのですが、ある社員が「子どもたちへのアピールになり『能代電設工業は立派な会社だ』と思ってもらえる」と言うのを聞き、可能な範囲でコマーシャルや、お祭り・花火など地域イベントへの協賛をしてきました。本当の狙いは、子どもたちの親御さんへのアピールです。秋田県、能代市にこんな会社があるのだと親御さんに知ってもらい、将来、できれば子どもたちに当社への入社を勧めてもらいたいのです。

また、このたび、秋田県版の健康経営優良法人に2年連続2度目の認定をいただきました。この認定は、社員も会社も様々な面で本当に健康でないといけないものであり、今後は健康支援への取り組みや社員の健康維持・増進をさらに進めていきたいと考えています。これに関連しますが、昨今の「働き方改革」についても、当社は既に取り組みを行ってきました。例えば、時間外勤務の過去データをもとに社員と相談して圧縮をはかる、有給休暇もちゃんと消化してもらうなど、かなり以前から当たり前のこととして行ってきたのです。社員の休暇は、同業の工事会社と比べて多いはずですが、時間外勤務の圧縮や休暇の増加によって、労働時間が短くなったり作業人員が少なくなったりすると、計算上はこなせる工事量も少なくなるのですが、実際にはそうなりません。 「やればできる」のです。当初は社員も大変でしたが、業務のスキルアップをはかるとともに、書類作成などデスクワークの効率化を進めた結果、工事量を減らさずに対応できています。

それから、事業構成の見直しも行ってきました。5年位前に、それまでは東北電力様関連の仕事が当社の受注の大半を占めていましたが、他の仕事を増やすことに本格的に取り組みました。お取引先のお蔭で培ってこられた技術・技能で何ができるのかと考えたところ、今後は「環境」と「情報」の時代だという結論に至り、両分野に力を入れることにしたのです。



(当社のロゴ)

お蔭さまで、環境分野では下水プラントや清掃工場の仕事、情報分野では情報表示板などの電気通信工事の仕事を受注できるようになり、今では受注の約8割がこうした民間工事や公共工事になっています。

■地域と共に生きる総合エンジニアリング企業

我われ建設業は、現場第一線で働く人が最も大変です。雨の中、雪の中、嵐の中でも仕事をやらなければなりません。そんな現場の社員が「仕事をしやすい」とか「仕事が楽しい」となるように、内勤の者は仕事を支えなければならないと、いつも社員に言っています。それが工事の安全と効率にもつながると、私は確信しているからです。

当社には自慢できるようなものはありませんが、強いて挙げるとすれば、この「安全」に加え「機動力」になります。これらがあるからこそ、色々な方々から仕事に関するお声がけをいただいていると思います。

当社が標榜する「地域と共に生きる総合エンジニアリング企業」を支える重要な柱としても、引き続き「安全」と「機動力」を強化していきたいと考えています。

会 社 概 要

- | | | |
|----|--------------------|---|
| 1 | 会 社 名 | 能代電設工業株式会社 |
| 2 | 代 表 者 | 代表取締役 山田 倫 |
| 3 | 所 在 地 | 〒016-0801 能代市浜通町1-45 |
| 4 | 電 話 番 号 | 0185-54-4249 |
| 5 | F A X | 0185-54-2833 |
| 6 | U R L | https://noden.jp/ |
| 7 | 設 立 | 1979年（昭和54年）11月2日 |
| 8 | 資 本 金 | 5,000万円 |
| 9 | 売 上 高 | 34億6,000万円（2021年7月期） |
| 10 | 従 業 員 数 | 85名（2021年11月現在） |
| 11 | 事 業 所 ・
事 業 内 容 | <input type="checkbox"/> 事業所
能代火力事務所 能代市字大森山1-6
原町火力事務所 福島県南相馬市原町区金沢字前田278-1
秋田営業所 秋田市外旭川字四百刈31-2
<input type="checkbox"/> 事業内容
（特定）電気通信工事業・電気工事業・機械器具設置工事業・管工事業・土木工事業・とび土工事業
ほか
（一般）清掃施設工事業・消防施設工事業・防水工事業 |
| 12 | 企 業 理 念 | 私達は、常にお客様の信頼と満足を目指し、より質の高い工事とサービスを提供します。 |